

朝明中学校通信 第 10 号	和 学 鍛	令和 4 年 9 月 5 日 発行：朝明中学校長
-------------------	-------	-----------------------------

夏の終わりと秋の始まり

夏休みが終わると秋・・・・昔から暦の上での秋の始まり、冬の始まり、春の始まりはありますが、感覚的にそれらの季節の区切りはそんなに明確ではないような気がします。それでも、四季の中でこの時季だけは季節の区切りがはっきりわかるような感じがします。夏の終わりに感じる一抹の寂しさとともに、暑さから解放される期待と秋の清涼感が身をひきしめる時でもあります。

教師という職業柄か、(私、校長も)今でも幼少の頃と同じ季節を感じる事が出来ます。2学期の始まりは、けだるく、そして何よりもいっそう残暑が身に沁みる。生徒も先生もおそらく同じところがあるかも知れませんね。

しかし、2学期の大きな波に乗れるのはすぐです。この暑さも、この学期末には寒さに変わります。ほんの3カ月で。3カ月前は同じ暑さの中にいたのに、あと3カ月後にはまったく違う季節の中にいるこの不思議、そして季節の移り変わりを一番楽しめる学期でもあるのです。そう思うと2学期もなんだか楽しい。いつもこの季節はそう言いきかせて、充実した2学期にしようと自分にも言い聞かせています。

全国学力・学習状況調査からみる朝明中生 その1

本年 4 月 19 日に中学校 3 年生（小学校は 6 年生）を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が明らかになりました。今回の学力調査では、国語、数学、理科の 3 教科で実施され、本校は各教科とも全国平均を下回るという結果でした。

それでも 3 教科ともに無回答率が全国平均、県平均と比べて低く、問題に取り組む意欲の高さを感じます。今回の結果から見える今年の朝明中生の強み弱み、生活の実態についての特徴的なものをこれから紹介していきます。



中学校国語

◆ 言語文化に関する正答率が高いが、論述問題が苦手

調査の結果、国語については、問題を最後まで解こうという意欲があり、短答式の問題や漢字を読むなどの言語に関する問題はある程度の正答率がありますが、特に情報の取り扱いに関する事項の読み取りがあいまいになり、条件がある作文を書くことが苦手であることがわかりました。また、文学的文章の読み取りでは、場面の展開や登場人物の心情の

変化をとらえることが十分にできないための誤答が多くありました。全体的な傾向としては、とくに表現力等において「書くこと」（全国平均に比べ 7.3%）「話すこと・聞くこと」（全国平均に比べ 5.8%）と、かなり低い結果となりました。

国語の平均正答率

朝明中	67%
三重県(公立)	68.2%
全 国(公立)	69.0%

様々な文章に触れることが足りないためか語彙力が低く、ふさわしい言葉を使い表現する応用力が身につけていないと推測されます。

◆◆◆ 今後の改善点

授業において、表現や描写に基づいて「読むこと」の指導を行うとともに、内容理解だけでなく、文章構成や展開、表現の仕方等に留意し、どのような工夫と効果があるのかを指導することを大切にしていきます。また、「書くこと」の活動を増やし、文を作ることに慣れるよう支援するとともに、相手を意識した文章の書き方を段階的に指導していきます。

図や表などの資料を適切に読み取る作業も教材に応じて時間をかけて取り組むことが必要です。さらに、漢字、語句、文法についても、繰り返し学習することで、正しい理解や読み取り、聞き取りのあいまいさを克服できるような授業改善に努めていきます。

中学校数学

◆ もう一度 基礎的な力の定着を確認しよう！

数学の平均正答率

朝明中	45%
三重県(公立)	51.9%
全 国(公立)	51.4%

数学では、三重県や全国との差が大きく開いています。とくに、計算の基礎ができていない生徒が多く、どの分野においても平均を下回っています。1年時に学習した 42 の素因数分解ができない生徒が半分を超えている（正答率は本校 48.5% 三重県 58.8%）上に、関数については、昨年度も全国を下

回りましたが、今年度は基本問題でもなかなか難しい結果となりました。グラフを読み取る問題、推測する問題、説明をする問題もどれも正答率がかなり低くなっています。

◆◆◆ 今後の改善点

2学期以降の授業は、二次関数や図形になるので、基礎が不十分な生徒については、計算を繰り返し身につける指導が必要です。個々の学力の定着度に応じてきめ細やかな学習計画を進めていかなければなりません。全体的には計算の基礎の定着を目指します。これからが勝負です。

※ 次回は「理科」と「生徒質問紙」を検証します。

THE BENRON & 少年の主張

8月27日（土）、中学生スピーチコンテスト（THE BENRON）が四日市市総合会館で行われ、市内の中学生がさまざまなテーマについて、自分たちの思いを語りました。本校から木村 遥香さん（3年）が出演し、「『性別』って知らないですね。」をテーマに、自らの体験から感じたことや考えたことを堂々と語りました。



また同日、第44回少年の主張三重県大会が尾鷲市民文化会館で行われ、井上 響貴さん（2年）が市の代表に選ばれ、「1340円の失敗」といった自らの経験を元にした思いを堂々と主張しました。二人のスピーチは来る文化祭で披露してもらいます。

